

## 石巻市第3次障害者計画「パブリック・コメント」意見一覧

募集期間：平成29年2月15日～平成29年3月6日

投稿件数：15件

番号	項目	意見・提案の内容（要旨）	石巻市の考え方
1	第1章 計画策定にあたって	よく計画は作文に終わるとか、絵に描いた餅とか等々云われることがあります。決してこのような事の無いようにお願いしたい。 基本的には、予算的裏付けが必要なものですが、この計画は、金が掛るのか、掛からないこと（あくまで幹の部分のこと）なのかを見極めながら立案する（計画の為の計画は駄目）ことが肝要と考えます。 例えば、既存の（社会）資本【物的・人的】を活用したりすることは、当該“掛らないこと”に該当するものと思えますし、計画立案には、先ずは、現状把握が大事（何をどうする）ではないかと考えます。	本計画策定にあたっては、当事者へのアンケートを実施し、現状とニーズの把握に努めたほか、計画中には、アンケート結果等を踏まえ、6つの基本目標を掲げ、その達成のための施策、具体的取組等を掲載しております。ご意見のように「計画のための計画」にならないよう、費用面を含めた現実的かつ効果的な施策の推進に努めて参ります。
2	第2章 障害のある人を取り巻く環境	諸制度等ができて、予算措置がなされ、そのお金が流れて動き出しても、実際携わる人たちに血がかよっていないと、意味がないものになってしまう現実が多々ある事を直視してなければなりません。お金を生かすも殺すも人次第です。しかし、その裏返しも多数あることを信じたい。 難病患者も障害者ですし、所謂、障害者手帳を持っていない方や、市の窓口での認定でしょうか係る手続きをされていない方も如何程おられるのかも気になります。障害児者は数値で見れば僅少でしょう。しかし、生きていますし、社会との関わりをもって生きたいのです。その症状も多種多様で、その出方もコントロールできるものではありません。今動けていても突然身動き一つ出来なくなるとか（一つの例ですが）、そういうことを少なくとも直接携わる方々は、少なくとも知識としてもっておいていただきたいのです。それは、潜入感を持たず、事実をそのままとらえる日頃の訓練・心構えをして、その知識を蓄積させていくものと思えます。 また、計画段階での当事者の参画は当然なされているとは思いますが、運用後の継続的な状況把握（検証）も当事者目線をお願いしたいものです。	窓口対応の職員をはじめ、多くの職員が携わっておりますが、寄り添う心を大切に日々の業務に当たって参りたいと考えております。 また、計画段階及び策定後の当事者の参画につきましては、障害福祉推進委員会の委員に障害者団体（当事者団体）のほか、家族会等にもお願いしております。
3	【P19～21 地域資源の状況】	サービス提供事業所はここ数年でも増加傾向にあり、事業所間の競争も激化し、サービスの質の向上が求められている時期に来ていると感じています。また、相談支援事業所の数に対してニーズはさらに多くあると日頃より感じ、相談のニーズに追いついていないように思います。「どこに相談したら良いか分からず一人で悩んでいる」と、聞かれます。石巻市の今後の考えをお伺いしたいです。	サービスの質が損なわれないようにするため、県又は市による実地指導を行っております。また、相談支援窓口の周知等につきましても、相談者が迷うことのないように努めて参ります。
4	【P27 下段 ハード・ソフト両面の～ バリアフリー化必要】	市内のスーパーやお店の車いす用駐車スペースはあるが、大体は満車で止められず駐車を断念する場合があります。健常者が停めていたりすることがあるので、残念に思います。もう少し本当に必要な人の為にも障害理解の促進を望みます。	障害の理解促進のための研修会の開催等、支えあう市民意識の醸成の施策に努めて参りたいと考えております。
5	【P29 災害への備え】	避難者名簿の存在を知りませんでしたが、名簿はどのようにして作成され、登録したい場合どのようにしたら宜しいでしょうか。	市が作成している避難行動要支援者名簿への登録は、希望する方から市への申請に基づいて行っています。現在、福祉総務課、障害福祉課又は各総合支所保健福祉課で申請を受け付けております。

番号	項目	意見・提案の内容（要旨）	石巻市の考え方
6	【P33 家族負担の軽減について】	地域包括ケアシステムを推進と耳にしますが、限られた最大限の所でも構いませんので、障害分野においても在宅サポートの強化は難しいのでしょうか。	在宅生活を支援するため、平成30年度から新たに「自立生活援助」や「就労定着支援」が追加される予定となっております。市においても国の指針に基づき適切なサービス提供に努めて参ります。
7	【P33 療育機関】	療育機関の充実は、早急に求められていることだと感じています。未就学児のみならず就学後でも相談先が見つからず困っているという声も実際に聞きました。未就学児から成人後までトータルでサポートし、相談が1か所で済むようなセンター設置を切に願います。	貴重なご意見として承り、乳幼児期から成人まで、切れ目のない支援の実現に向けて、取り組んで参ります。
8	第3章 基本構想	元々、人は社会性を持った生き物ですから、一人では生きられないのです。中には刑罰で社会から隔離されて投獄される人もいますが、それは例外でしょう。 しかし、施設にいる障害者は、ある面、社会と隔離されているという面を持っていることも認識しておく必要があります。気管切開して話せなくても、筋肉が衰えて手足が動かさなくても、共に生きていきたいし、その思いを勝手に閉ざして（多くは消極的）はいけないのです。この当たり前のことができない社会は、その社会自体が病んでいるのです。	施設での暮らしから地域生活に円滑に移行できるよう、必要な支援やサービスの確保に努めて参ります。 また、障害の有無にかかわらず、共に安心して暮らせる社会の実現に向けた取組に努めて参ります。
9	第4章 施策・事業の展開	集会、催し・チョットした集い、会議等々・・・に主催者として携わる方、いや参加者全員が、気付くこと、そしてそれを声に出すこと、そして実際行動すること・・・そういうことを繰り返していくことからはじめていくことを・・・諦めずにやってもらいたいです。車椅子に実際試乗（下り、上りく坂としか見えないスロープもあります）、段差、砂利道、砂場、石畳、歩道・・・など）してみてもいいでしょうか。目隠しして、横断歩道を渡ってみてもいいでしょうか。耳を塞いで、音のない世界を経験したり、杖を突いて少し歩行たりしてみてもいいでしょうか。 例えば、車椅子一つとっても、それは猫車みたいな単なる運搬車ではないのです。身体の一部となる補装具です。従って、医師等の指導のもと、個々の身体状態にきちんと合わせたものでないと、体幹が歪んで内臓が変に圧迫されたり、転倒したり、創傷が出たり、骨折したりとか、色々な問題も考えられるのです。少なくとも今健常でも誰でも老化をむかえます。そしたら、「姥捨て山にでも」ということではいけないことは誰でもわかっているわけですから、そこから、実感をもった気づき（知恵の結集）で以て、一步一步進めていってもらいたいです。	共生社会の実現に向け、障害への理解促進のための取組に努め、市民一人ひとりが「社会的障壁」や「合理的配慮」を考える気運を高めて参ります。
10	第4章 施策・事業の展開 【 P50~51 相談支援体制の確保】	困難ケースでは在宅の場合、相談機関が複雑となり、お互いに行き違い、すれ違い易くなり、相談するのも大変な労力です。一か所で済むような体制または横の多職種連携の体制強化を望みます。石巻市内で相談支援事業所が増える可能性はあるのでしょうか。 相談員さんの負担もかなりあるのではと感じています。	貴重なご意見として承ります。相談支援体制については、引き続き検討して参ります。
11	【P55 障害福祉サービスの充実】	当事者のみならず、その家族の支援としてショートステイ、レスパイトの充実を図り、当事者のニーズに対して丁寧な説明・助言において、当事者やその家族が自己決定、選択できる支援の在り方の構築をご検討頂けると助かります。	サービス等利用計画作成の際、当事者の自己決定権、選択権が尊重されることとされていますので、ご理解願います。

番号	項目	意見・提案の内容（要旨）	石巻市の考え方
12	【P59 障害児サービスの充実】	障害児の福祉サービスについて、障害児を抱えているながら共働き世帯も多いと聞きます。どのサービスにおいても、送迎のニーズは多くあり、送迎加算を増やし事業所にとっても、保護者にとってもプラスとなる方法や、家族支援にも力を入れて頂きたいと切に思います。	福祉サービス利用に伴う送迎は、当該サービスを提供する事業所による実施を基本としていますが、障害の状態や必要に応じて、移動支援による対応もいたしておりますのでご理解願います。
13	【 P62~64 多様な就労への支援】	障害者雇用について、障害者に対する支援であったり、就労するまでの取組みや就労を定着させる取組みについては、記載があるが、障害者を雇用している企業（又は雇用を考えている企業）に対しての支援がないと感じられる。	貴重なご意見ありがとうございます。障害者雇用促進のための対策として、法定雇用率の達成や障害者施設の商品購入等の促進策を検討して参ります。
14	【 P71 発達・療育支援環境の充実】	早期発見の為にも、支援者側の理解、保護者に対しては配慮と説明が大切なのではと思います。支援者の方々向けに勉強会や事例検討会などの機会を増やし、困って悩んでいる方々の支援に当たって頂きたいです。	障害の早期発見に努め、身近な地域で適切な療育支援を継続的に受けられる体制の整備に努めて参ります。
15	その他	私もポリオ罹患患者で、0歳で下肢障害となり、今では徐々に上肢の筋力も衰え（PPSか）が顕著になってきました。しかし、町内会の班長が回ってきたら引き受けようと思っておりますし、その会合にもできるだけ参加したいと考えており、実際参加しています。しかし、健常でも参加者は少ない限りで、寂しいです。昔は、学校の運動会では町内も参加したお祭りでしたし、時として怪我もしたし、知らないおじさんに怒られたりもした。皆が参加する核となるものがが必要です。学校、老人等のケアサービス施設、幼稚園、保育所（特に重度障害児の保育所）、グループホーム、町内会の集い等々、行政的には縦割りでしょうが、これらは、本来のごちゃまぜの社会でいきいき生きることの原点の縮図のようにも思えるところです。そこへの回帰が色々な言葉で今言われているような気がしてなりません。学校では、先生方だけで対応しようとして内向きになっていってしまっているようですし、また、痴呆症とかアルツハイマー病とかの医学的な病名がつくようになりましたが、昔は隣のばあさん「ボケてさ」とか言って、皆で気遣ってましたよね、今では「ボケ」というと差別言葉みたいな印象ですけど、一種温かみのある寄り添った言い方に思えるし、今の病名ですと、何かその病を隠そうとしてしまうような変な現象にはなってはいないでしょうか。この例えの何れも地域との係わりの問題でしょう。この計画は一面、世知辛い世の中の世直しと云う風にも見えなくもありません。	町内会への参加、近隣のお年寄りや障害のある人への気遣いなど、ささえあいの気持ちは、共に安心して暮らせる社会を実現するために欠かせないと考えております。 貴重なご意見をありがとうございました。